

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

12月22日(木曜日)
 旧 11月29日<先負>
 ★冬至★
 通日 356
 月齢 28.2
 (正午)

■ あすの暦

—東京標準—
 満潮 4.43
 15.17
 干潮 9.58
 22.24
 (中潮)

日出 6.47
 日入 16.32
 月出 5.19
 月入 15.06

「仕事場は武蔵野」一貫

文人の武蔵野

「君たち、漫画から漫画の勉強するのはやめなさい。一流の映画をみる、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読め。そして、それから自分の世界を作れ」
 手塚治虫(1928～89年)がトキワ荘に集う漫画家たちに託した言葉です。昭和30年前後、手塚治虫を中心に漫画家たちがトキワ荘に集い、切磋琢磨して優れた作品を次々に発表し、多くの作品がアニメーションになりました。

手塚治虫 ④



東久留米市役所前のブラックジャックが描かれたマンホール蓋

現在の武蔵野には、世界的によく知られる漫画やアニメの聖地が集中しています。その原点には、手塚の上京以前から西武線沿線にあった武蔵野漫画家村ともいうべきエリアがありました。その武蔵野

が手塚らの「あこがれ」を誘い招き寄せ、トキワ荘の時代が始まりました。

トキワ荘の次に手塚が仕事場に選んだ並木ハウスのある雑司が谷もまた都会ではなく、文化的な記憶を継承する武蔵野の地でした。夏目漱石の小説「こころ」の主人公の「私」が「先生」を訪ねると、「先生」は雑司が谷の墓地に出かけていました。「先生」は毎月、雑司が谷の墓地を訪れては、親友「K」の墓に花を供えていたのです。漱石自身、夏自家の墓ではなく、雑司が谷の墓地に眠っています。雑司が谷の後も、手塚は、初台、富士見台、下井草、東久留米と居を移しますが、初台以外は西武線沿線でした。終焉の地となった東久留米の自宅の徒歩圏内には新座のスタ

ジオと平林寺があります。武蔵野の雑木林の残る平林寺は特にお気に入りでした。

両親は東京出身、お墓は巣鴨、文学と映画と音楽とネオンを好むと語る手塚にとつて、生涯、仕事場は武蔵野に限る、という姿勢が一貫してみてとれます。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「手塚治虫漫画全集別巻1 手塚治虫エッセイ集1」

『手塚治虫漫画全集』(講談社)全400巻の中から、別巻1「手塚治虫エッセイ集1」をおすすめします。収録されている自伝を読むと、武蔵野や文学との関わりがよくわかります。ちなみに別巻2は小説集です。



(手塚治虫、講談社)
 ©手塚プロダクション